

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情・人格心理学			17311	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅谷 豊	選択	2	公立高校教諭（過去）、大手前大学学習支援センター（現在）勤務、 臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個別性を理解することで人間の心に関する理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉がうまれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

授業計画

- はじめに:人格の定義と歴史
- 人格を理解する観点と理論Ⅰ:理論
- 人格を理解する観点と理論Ⅱ:類型論
- 人格を理解する観点を理論Ⅲ:特性論
- 人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
- 人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
- 人格と関係性
- 人間関係と性格(適性)
- 適性とやる気
- 適応と不適応
- パーソナリティと不適応
- 交流分析とTEGⅡ他心理査定
- 感情とは何かⅠ-感情に関する理論および感情喚起の機序
- 感情とは何かⅡ-感情の進化と行動に及ぼす影響
- 総括

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を紹介する。

準備学修

授業後の復習が必要である。

課題・評価方法、その他

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席状況（15%）、授業後の感想レポート（15%）

欠席について

欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

適宜プリント資料として配布する。

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社
 大山泰宏・佐々木玲仁『感情・人格心理学』NHK出版

留意事項

「授業」は授業者と学生の相互の協力のもとに成立するものであるから、学生諸君は要望、意見を忌憚なく述べて欲しい。

教員連絡先

yasatani@otemae.ac.jp

オフィスアワー

非常勤のため、特に設けられない。質問等は授業の前後に受け付ける。特に対面を希望する場合は、上記アドレスまでメールにて申し込んで欲しい。できうる限り学生の要望に応えたい。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学概論			17327	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
津田 明子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史的変遷を概観し、臨床心理学の代表的な理論について学習する。その上で、臨床心理学の実際として、心理アセスメントと基本的な心理療法について学ぶ。そして最終的に、臨床心理学における基礎知識とさらに、臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の成り立ちを歴史的変遷を通して概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の理論（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解することについて考えてもらう。

授業計画

- 臨床心理学とは
- 臨床心理学の成り立ち
- こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
- こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
- こころの発達理論①エリクソンの考え方
- こころの発達理論②クラインの考え方
- こころの発達理論③マラーの考え方
- こころの発達理論④ウイニコットの考え方
- 臨床心理学の実際ー心理アセスメントについて
- 臨床心理学の実際ー心理療法とは
- 心理療法①精神分析療法・分析心理学派
- 心理療法②クライエント中心療法
- 心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
- 心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 総括・テスト

授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところなどを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

教員連絡先

tsuda@kaisei.ac.jp